

二〇二六年度

文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

直接解答

博士課程後期課程

〔正規学生 (一般)〕
〔特別学生 (社会人)〕
〔特別学生 (外国人留学生)〕

日本文学・日本語学領域

(日本文学・日本語学)

試験科目

専門外国語科目

受験番号

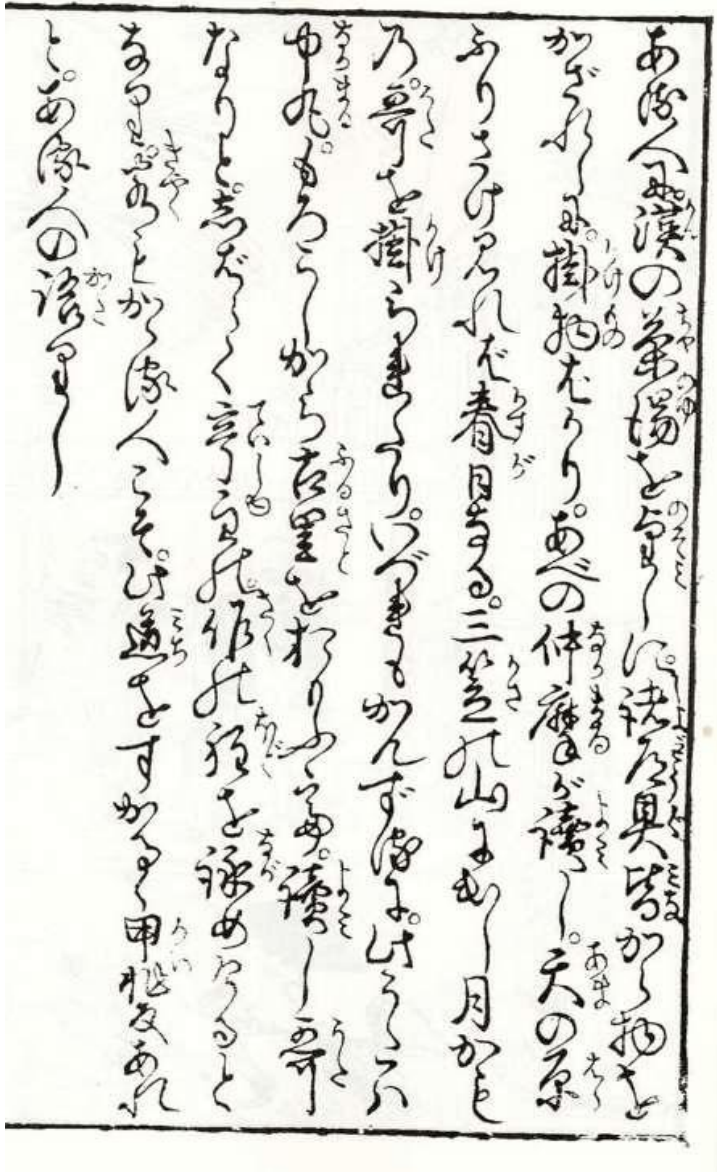
番

次の問題【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】から二題を選び、各々直接解答しなさい。その上で、選択した二枚を提出しなさい。

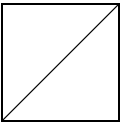
↓
解答記入不可

【Ⅰ】 以下は『西鶴諸国ばなし』巻五の一「灯挑に朝顔」の一節である。(甲)すべて翻字し、設問(乙)について答えなさい。

設問(甲)



設問(乙) 右の文は茶道における亭主の風流あるエピソードを語っている。簡潔に説明せよ。



____ 枚 中

博士課程後期課程

〔正規学生（一般）〕

〔特別学生（社会人）〕

〔特別学生（外国人留学生）〕

日本文学・日本語学領域

（日本文学・日本語学）

試験科目

専門外国語科目

受験番号

番

解答記入不可

【Ⅱ】「一」～「四」すべて答えなさい。

〔一〕次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

駿河国、*貞長がもとに*興良親王あるよし聞きて、しばし立ち寄り侍りしころ、（中略）忠雲僧正がもとより、いかにもして下りて、Aひなの住まひ見るべきよし申しおこせたりしかども、むなく月日過ぐし侍りしかば、申しつかはしける、

清見瀉浪の関守ひまもあらばBまつとは告げよ三保の浦風

かくて、またの年の半ばまで住み侍りしかども、さすがまたC我が世へぬべき所にもあらねば、ここをも立ち出で侍らんとせしに、狩野介貞長などやうの者ども、D夜もすがら名残惜しみて盃たびたび侍りしほど、過ぎに仕方、なほ行く末の事まで、二心なきことなど申し集めつつ、はては酔ひ泣きなどせしかば、Eいつのほどよりの馴染みにかとあはれに覚えて、出でさまにその壁に書きおきし、

身をいかに駿河の海の沖の浪よるべなしとて立ちはなれなば

（宗良親王『李花和歌集』）

*貞長……駿河国の武士。南北朝の内乱では南朝方（宗良親王の陣営）に属して戦った。

*興良親王……筆者（宗良親王）の甥にあたる人物。

問一 傍線部A「ひな」、傍線部D「夜もすがら」の意味を記しなさい。

問二 傍線部B「まつ」とあるが、何を待っているのか、次の中から選びなさい。

- ア 興良親王
- イ 忠雲僧正
- ウ 我（筆者）
- エ 関守
- オ 浦風

問三 傍線部C「我が世へぬべき所にもあらねば」を現代語訳しなさい。

問四 傍線部E「いつのほどよりの馴染みにかとあはれに覚えて」とあるが、このとき筆者はどのようなことを感じたのか、わかりやすく説明しなさい。

〔二〕次の①②を現代語訳しなさい。ただし①の「時鳥」はひらがなに書き直すこと。

① 二声と鳴かばこそあれ時鳥聞かぬになしてなほや待たまし

② 求め給ふらむ物を奉りなむと思ひ給ふれど、今にえこそ見つけ侍らね。

〔三〕次の漢文を書き下し文に直しなさい。

ムルヲ キハ リテ ルニヲ ラ トスルニ

治レ国之難、在ニ於知レ賢、而不レ在ニ自賢。

〔四〕次の熟語を新字体に直しなさい。

- ① 缺點
- ② 櫻竝木
- ③ 即効性
- ④ 眞晝
- ⑤ 轉寫

〔一〕問一 A

D

問二

問三

問四

〔二〕①

②

〔三〕

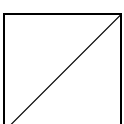
〔四〕①

②

③

④

⑤



枚 中

二〇二六年度

文学研究科入学試験問題（解答別紙・

直接解答）

博士課程後期課程

〔正規学生（一般）〕

〔特別学生（社会人）〕

〔特別学生（外国人留学生）〕

日本文学・日本語学領域

〔日本文学・日本語学〕

試験科目

専門外国語科目

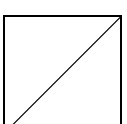
受験番号

番

↓
解答記入不可

【Ⅲ】以下は『源氏物語』「若紫」巻、北山で療養していた光源氏を迎えに、友人である頭中将や弁の君が訪れ、にわか合奏が始まる場面である。全訳しなさい。

頭中将、懐なりける笛取り出でて吹きすましたり。弁の君、扇はかなううち鳴らして、「豊浦の寺の西なるや」と謡ふ。人よりは異なる君たちを、源氏の君いといたううちなやみて、岩に寄りゐたまへるは、たぐひなくゆゆしき御ありさまにぞ、何事にも目移るまじかりける。例の、筆簾吹く隨身、笙の笛持たせたる好き者などあり。



____枚 中

二〇二六年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)		
博士課程後期課程 〔正規学生(一般)〕	日本文学・日本語学領域 (日本文学・日本語学)	試験科目 専門科目
		受験番号
		番

次の甲群三題から一題を選び、乙の一題と合わせ計二題について、別紙解答用紙に答えを記しなさい。

↓
解答記入不可

【甲群―一】
以下について、四百字程度で説明しなさい。

「談林俳諧と松尾芭蕉の関係について」

【甲群―二】
中世文学と『伊勢物語』との関係について、具体例を挙げながら論述しなさい。

【甲群―三】
平安文学に見られる漢籍の影響について、具体例を挙げながら論述しなさい。

【乙】
近現代日本において、メディアは文学にいかに関与し、作品の形式／内容をいかに変質させたか。複数のメディアを挙げ、時代による変遷の力学を示しながら、具体的な作家・作品名を示して説明しなさい。はじめに、論じるのはいつの時期か(例「明治後期～昭和初期」)を記すこと。

____枚 中

